

令和元年度和歌山県名匠

し が けい じ 志 賀 啓 二

職 種：紀州桐箆筒製作

住 所：和歌山県和歌山市

生 年：昭和24年

◎ 業績及び経歴

18歳からシガ木工の6代目として、父のもとで修行を積んで以来52年間、紀州桐箆筒の製作に専念してきた。紀州桐箆筒は、江戸時代末期には現在の和歌山市において製造技術が確立したと考えられており、明治時代には、大阪圏の需要を満たす地廻り産地として発展を続け、南海鉄道の開通により貨物輸送が可能になったことを機に、製作が一層盛んになり技術面でも発展を遂げた。

箆筒の製作には、自然乾燥、木取り、矧ぎ加工、本体加工、組み立て、仕上げなどの工程があるが、氏はほぼ全行程を手仕事で仕上げられる数少ない職人のひとりである。現在は主に仕上げ加工を専門とし、平成20年に塗装部門で伝統工芸士の認定を受ける。

白い木肌を際立たせる「砥の粉仕上げ」に対し、木目を模様として浮き上がらせる「焼き桐仕上げ」を考案。また、「砥の粉」に色彩を施すことで現代的な彩色の桐箆筒に仕上げる技法を県工業技術センターとともに開発するなど、優れた技術を継承する中で、次代にも続く紀州桐箆筒の製作に励んでいる。

また、氏は平成11年に代表取締役役に就任すると、後進の指導にも力を注ぎ、社内で7名の伝統工芸士を育成した。

さらに、和歌山県家具工業協同組合では、設立時より理事を務め、紀州桐箆筒協同組合では、国の伝統的工芸品（「伝統的工芸品産業振興法」に基づく。）の指定に中心的役割を果たした。平成24年には、和歌山県で初めて開催された「第32回全国伝統工芸士和歌山大会」において大会副委員長に就き大会を成功に導いた。このように技術者としてだけでなく、業界の発展にも寄与しており、その功績は多大である。